

大切な
お知らせ

令和5年7月から

もえるごみ袋の **増額**を予定 しています！

【増額予定金額（10枚の価格）】

もえるごみ袋Lサイズ

150円 → 500円

もえるごみ袋Sサイズ

100円 → 300円

もえるごみ袋SSサイズ

80円 → 200円

なぜごみを減量する必要があるのでしょうか？

長久手市で収集したもえるごみは、尾張旭市にあるごみ処理施設「晴丘センター」で焼却され、その灰は瀬戸市にある最終処分場で埋め立てられます。「晴丘センター」の老朽化による建て直しに数百億円もの費用が必要となり、最終処分場で埋め立てられる灰の量も有限です。満杯になれば次の処分場の候補地を探す必要があり、それは長久手市になるかもしれません。長久手市の将来のため、今こそごみを減量し、晴丘センターへの負担を減らすとともに最終処分場の延命化を図る必要があるのです。

ごみ収集の現状と課題

- ① 人口増により、ごみの総量が増加している。
- ② もえるごみ袋に、プラスチック製容器包装や雑がみなど資源に分別できるものが多く混入している。
- ③ 1人1日あたりのごみ排出量が、505g（令和2年度）となっており、令和5年度目標の431gを達成するには約15%のごみ減量が必要。

課題を解決するための施策

- ① 資源の回収頻度を増やし、市民の資源を分別する意識を高めます。（例：プラ：隔週→毎週、古紙：月1回→2回、ペットボトル：月1回→2回など）
- ② ごみの減量、資源分別の行動を促進するため、「プラスチック製容器包装」と「もえないごみ」の指定袋の価格は、これまでどおりとします。
- ③ ごみ収集車を増台し、収集時間の短縮と、カラスや猫によるごみの散乱防止を図ります。

ごみ袋増額によって得た財源を、ごみ収集に関する課題解決のための施策に充てます！

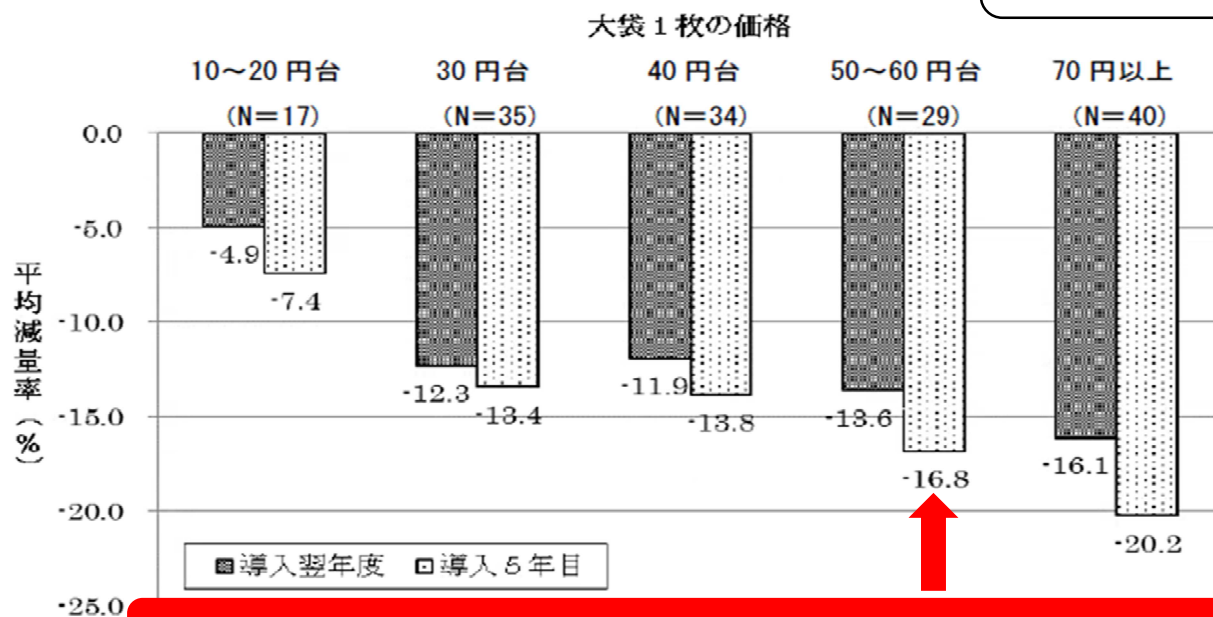
ごみ袋増額と施策実施による効果

- ① 市民の分別意識が高くなり、もえるごみ袋の中に混入する資源の量が減り、ごみの減量につながる。また、資源として回収する量が増え、リサイクル率が上がる。
- ② 1人1日あたりのごみ排出量が減る。
- ③ ごみの収集時間が早くなる。
- ④ カラスや猫などによるごみの散乱被害が少なくなる。

もえるごみ袋Lを1枚50円に設定する理由

図4 手数料水準と家庭ごみ排出原単位の減量効果
(2000年度以降有料化導入・単純従量制155市)

出典：山谷修作(2018)「ごみ減量プログラムの新たな展開と課題 都市と廃棄物」p41-50



1枚50円以上なら導入5年後には15%以上のごみ減量効果があります

1人1日あたりごみ排出量を**505g**(R2)から**431g**(R5目標)に**約15%減量**する必要があります。

今後も情報発信していきます

この情報は、市ホームページでもっと詳しく載せていますのでご覧ください。今後も市ホームページのほか、広報ながくて、自治会の回覧などで情報発信します。また今後、市民に直接説明し意見交換をする場を設ける予定です。

今後のごみ収集をより良い環境で実施するための施策となりますので、ご理解とご協力をお願いします。

もえるごみ袋は新価格改定後、新しいデザインに変更する予定です。古いデザインの袋は改定後に使用できなくなり、新しいものとほぼ等価で交換を行う予定ですので、買いだめをしないでください。

問合せ

長久手市役所環境課ごみ減量推進係

TEL: 0561-56-0612